

[他の項目を見る](#)

アルコール代謝

[Facebookでシェア](#)[Twitterでシェア](#)[LINEで送る](#)

飲酒によって体内に吸収されたアルコールは、アセトアルデヒドという物質に変換されます。このアセトアルデヒドという物質は毒性の高い物質であり、二日酔いの原因になることが知られています。アセトアルデヒドは体内にあるアセトアルデヒド脱水素酵素によって無毒な物質へと変換されますが、この酵素遺伝子の違いによって、代謝できる人、ほとんど代謝できない人、代謝できない人がいることが分かっています。この項目ではアルコール代謝に関する遺伝的な傾向がわかります。

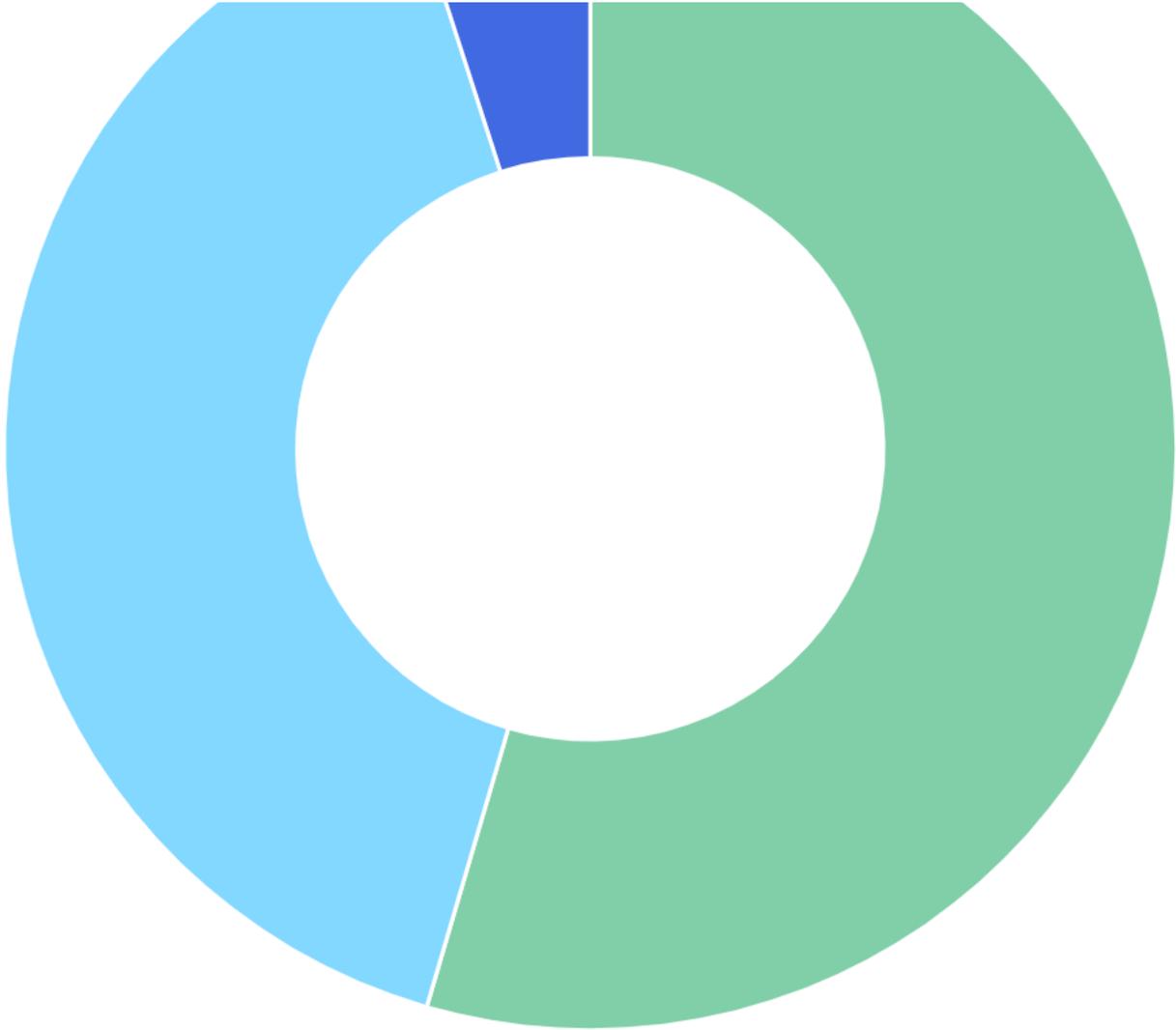
DNAから見る検査結果

あなたのDNAの検査結果から判定されたアルコール代謝についての傾向です。

分解できない	ほとんど分解できない	分解できる
--------	------------	-------

人口分布

人口における、それぞれの傾向の占める割合を表します。



 分解できる (54.50%)

 ほとんど分解できない (40.56%)

 分解できない (4.94%)

N/Aとは...「Not available」の略でデータが存在しないことを意味します。当社では論文に記載された人口頻度を参照し、結果をご報告しておりますが論文では発見されていない変異型についてはN/Aと表記させて頂いております。論文内では存在が確認されていない多型であるものの、存在しないわけではありません。該当する場合は、日本人では極めて珍しい変異型といえます。

GeneLife からの提案

分解できるタイプの方は両親から受け継いだアルデヒド分解酵素が両方とも機能型の方です。アルコールを摂取しても顔が赤くなりやすく、お酒にも強い方と言えます。ただし、アルデヒド分解能力が高いとはいっても、お酒は適量を心掛けましょう。ほとんど分解できないタイプの方は、機能型と機能喪失

いタイプの方は、非機能型を2つ持っている方です。体質的にアルコールをほとんど分解できないため、飲酒は避けるべきです。お酒の席では雰囲気を楽しむようにしましょう。

個別遺伝子型結果

遺伝子名	遺伝子型	解説	論文ランク
ALDH2	AA GG	ALDH2遺伝子は、アルコール代謝の中間産物であるアセトアルデヒドを分解し、無毒化する機能があります。この遺伝子がGG型の方はアセトアルデヒド分解能力が高く、AG型の方はアセトアルデヒド分解能力が低く、AA型の方はアセトアルデヒド分解能力がほとんどないと報告されています。	2

論文ランクとは？

遺伝子詳細

遺伝子名	ALDH2	遺伝子型	AA	AG	GG
染色体番号	12	人口頻度	5%	40%	55%
GHnumber	gh120001				

参考文献

樋口 進・他 et.al. アルコール依存症の分子遺伝学 脳と精神の医学 第8巻 第3号 1997年